

チャレンジアップ成功体験記

【ものづくり部門】2021年 3月受賞 山崎愛奈さん

業績：令和2年度新潟建築賞設計コンペ（第41回新潟県建築士会競技設計）大賞受賞

Q.1 設計コンペティションに応募したきっかけを教えてください。

建築設計製図を担当している先生からコンペの募集案内を頂いたことがきっかけでした。

Q.2 応募から出展までの道のり（テーマの発案、制作時間や制作方法など）を教えてください。

設計製図の授業で設計した住宅の応用をコンペの案として採用したので、全体的な制作時間は、約半年ほどでした。コンペのテーマにも沿った提案をしなかったら、作品のテーマやコンセプトを決めるのには時間をかけました。図面は、CADソフトのVector Works、プレゼンボードは、Illustratorを使って制作しました。二次審査が行われたのが春休み期間中だったので、模型の制作は自宅にて一人で行いました。

Q.3 実際に作品を制作してみてどうでしたか？

図面・プレゼンボードは、年末年始が重なっていたこともあり、時間に追われながらの制作になりました。また、模型の制作は、一次審査通過の通知（1月下旬）がきてからだったので、実際に制作を始めたのは、春休みに入ってからとなりました。そのため、一人で一から全てを制作するのは、なかなか骨の折れる作業で、プレゼンボードも模型もどちらも時間がかかってしまいました。しかし、時間をかけた分だけ満足できる作品に仕上げることができたので、時間をかけて良かったと思っています。

Q.4 学生コンペにチャレンジして良かったことを教えてください。

過去にいくつかのコンペに挑戦しましたが、挑戦を重ねるごとに建築的な発想や考え方が身についてきたような気がしています。また、今回のコンペでは、質疑応答や審査、審査委員長の手塚貴晴・由比夫妻のレクチャーを通して、今まで知らなかった知識を得ることができたので、滅多にない機会を設けて頂けたことに感謝しています。

Q.5 最後に、設計コンペに挑戦してみたい学生にアドバイスをお願いします。

授業の枠を超えて、積極的に学外コンペに参加することは、ある種、無謀のような気がしています。大学の課題をはじめ、アルバイト等今までの生活サイクルにプラスαでコンペの作業を組み込むことになるので、人によっては時間に追われるかもしれません。実際に私がそうでした。しかし、私はコンペに挑戦したことで、様々な人と関わることや、知識を得られる機会がこれまで以上に増えたので、少しずつではありますが、物事を建築的に捉えられるようになってきました。

自分の今の実力を知りたい人、知識や発想の引き出しを増やしたい人、卒業設計や将来のために力をつけたい人など、意欲のある人は可能な範囲でコンペに挑戦してみると良いと思います。コンペは、多方面における成長への近道です。

